

こもれび

夏

第18号

発行:2008年7月1日
向陽台病院広報委員会



夏をイメージしてデイケア・病棟の患者さんたちが制作した作品です。

CONTENTS

- 向陽台病院創立 45周年 新病棟建設
- 新しい先生紹介！
- 地域生活支援センター「なでしこ」リニューアル！
- 地域連携「春季城北大会開催」「お茶摘み」
- 発達障がい児(者)への手立てとかわり(三つ組①)

向陽台病院の理念

心を病む人の立場に立った専門的精神科治療の提供を行う

地域への精神科医療の啓発活動を通じて心を病む人のみならず、地域住民の心の健康増進に貢献する

●地域の様々な資源との連携の強化を目指します—医療・福祉・教育・産業・地域社会と積極的な連携が出来るように—

●良質で安全な医療の提供を目指します—相手の立場に立ち、私達が安心して自分の家族を任せられるように—

●専門性を高め、より高度な知識・技術の向上を目指します。—新しい技術・知識の習得、研鑽を心がけるように—

4月から向陽台病院に入職しました、医師の城野美佳子と申します。5年前から週1日勤務していたので、顔は知っている方も多いかと思いますが、改めて紹介させていただきます。

熊本で生まれ育ち、高校卒業後は出雲神社で有名な島根県出雲市にある大学に進学しました。九州育ちの私には、日本海側の天気ของ悪さにはうんざりしながらも、人との出会いにも恵まれ6年間を過ごしました。何とか大学を卒業した後は、以前から興味があった精神科を専攻し、1年目は岡山で、その後は帰熊し、県内の公立病院で研修してきました。経験も浅く未熟なばかりですが、さまざまな患者さんとの出会いは仕事だけでなく、人生においてかけがえのないものです。何らかの困難を抱え、目の前に現れる患者さんに対して、私ができることの少なさを痛感しながら、また、自分に立ち返り考えさせられる事も多く、患者さんから教えられ、励まされる事の方がずっと多かったです。精神科医としての専門性を発揮すべく勉強していく所存ですが、きっとこれからも共に悩んだり、教えられたりしながらでしか、皆さんと関わっていくことはできないのかなとも思っています。性格はのんびり屋と思われることが多いのですが、実際はおおざっぱで感情的、心配性です。

最後に、入職したばかりで恐縮なのですが5月から産休をいただいています。産後はまた復帰しますのでどうぞよろしくお願い致します。



診療部(医師)

じょうの み か こ
城野 美佳子

はじめまして。今年度4月1日から向陽台病院の薬局に勤務させていただくことになりました草場と申します。これまでは主に整形外科、リウマチ・膠原病内科領域の薬剤を中心とした病院にて勤務していました。その中で実に精神科領域の薬を飲まれている方が多いこと、また世界産業の中でうつ病が最も経済発展に打撃を与えることを知り、精神科領域の重要性を感じていたところ、ご縁もあり向陽台病院にお世話になることになりました。

現在、毎週水曜日の午前中に心理教育にも参加させていただいています。患者さんと椅子を並べて講義を聞いたり、時には患者さん本人の体験談なども聞いたり、通常の病棟活動では得られない貴重な経験をさせていただいています。そのなかで、まだまだ勉強不足ではありますが、患者さんやスタッフに少しでもお力添えできるような情報提供ができたらと考えております。

植木町という風土になんとか懐かしさを感じている毎日です。この地域に密着した医療を提供するためにも、しっかりとがんばっていこうと思っています。まだまだわからないことも多く、ご迷惑をおかけすることもあります、どうぞよろしくお願いいたします。



診療部(薬剤師)

くさば まさし
草場 正司

向陽台病院創立 45 周年記念 新病棟建設

当院は今年の9月15日で開設45周年を迎え、北病棟（昭和年代の建物）の老朽化もあり、今秋の完成を目指して、昨年
から3階建ての新病棟建築を行っています。

新病棟の完成時には、1階は急性期、2階は女性のうつ、3階は児童思春期と、それぞれの対応ができる病棟として始動する予定です。現在はスタッフの補充、新プログラムの立ち上げなどに部長たちを中心に準備を行っています。また、今まで私たちに治療的な環境を提供してくれた古い病棟にも愛着はあり、現在残ってはいますが、撤去される寂しさを感じなが

らも少しずつお別れを、自分の中で進めていっている状態です。

昨今、7万2千床の削減が言われている時代の中で、入院治療は以前のような長期間ではなく短期間で行い、回復した際に家庭・地域・職場などへ戻るスピードが早まってきている現状です。さらに安全管理も強く念頭に置き、当院が 45年間の中で、やり遂げてきた事、成し得なかった事、両

方含めて、この節目の年に、新病棟が単なる構造物としてだけでなく、古いものから新しいものへ、転換を図ろうとする私たちの意識も含めて、象徴的なものになってくれる事を期待しています。

新しい環境へ変わる事への期待と不安を抱きながら…。

（理事長・院長 横田周三）

新しい先生 紹介！



診療部（医師）
たなか みお
田仲 美緒

はじめまして。今年の4月から向陽台病院に勤務させていただくことになりました、田仲美緒（たなかみお）と申します。

平成18年4月から今年の3月までは、非常勤医師として週1回勤務させていただいていましたので、厳密に言うと「はじめまして」ではありません。また、私の名前を「今井」と覚えてくださっている方もいらっしゃると思いますが、昨年12月に結婚し、姓が田仲となりましたので、覚えていただけると嬉しいです。

初期研修を終え、精神科に携わるようになり、向陽台病院にも週1回勤務させていただくようになりました。そして、集団精神療法やデイケアが盛んに行われており、それぞれの職種の方々が専門性を持ちながら、他職種間の連携も密にとられていることに強い感銘を受け、今年の4月から就職いたしました。

今後も、向陽台病院の理念である地域に根ざした医療を充実させ、関係機関との連携を深めて、地域の皆様に貢献していきたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

春季城北大会開催

4月16日、山鹿市民スポーツセンターで、春季城北大会が開催されました。この大会は、向陽台病院、菊池有働病院、山鹿回生病院の3病院が交替で開催しています。当院からの参加者は24名で、3病院合計すると100名近くの方が競技を楽しむこととなりました。

この日は朝から雨が降っていたため、グランドゴルフは中止となり、それに代わって体育館でビーチバレーを行うこととなりました。室内での競技であることを残念に思う参加者もいらっしゃいましたが、いざ競技が始まると夢中になりました。即興で作ったチームでしたので、試合では、なかなか息が合わず、連携プレイを繰り出せずにいらっしゃいました。しかし、徐々にチームワークが確立され、息のあった連携プレイが次々と繰り出されるようになり、表情にも笑顔が多く見られるようになりました。見学で参加された方々も、徐々に応援に熱が入ってこられ、最後の方には一丸となって応援されていました。



昼食は、ブルーシートの上
に腰をおろし、栄養課が用意
したお弁当を皆さん和気あ
いあいと召し上がっていら
っしゃいました。いつもと違
った場所で、いつもと違う
メンバーと、いつもと違う食
事をとることが良い刺激とな
り、皆さんの表情には、笑顔
がこぼれていました。

今回の城北大会をとおして、仲間と一つの競技に一致団結して取り組むことを楽しんでもらえたのではないかと思います。

(リハビリテーション部 水田 秀樹)

お茶摘み

当院の茶畑で、3年前からデイケアと地域生活支援センター「なでしこ」との合同企画で茶摘みを行っています。今年は、立春から数えて88日目のちょうど5月2日に茶摘みを行いました。前日が雨だったため「明日はあるのかな？」と心配する声も聞かれていましたが、当日は晴天に恵まれ、少し汗ばむくらいの気候でした。なでしこ利用者と一緒にデイケアメンバー、職員など、たくさんの参加者が集まりました。毎年参加している人から今年初めて参加する人、年齢も10代から60代まで幅広いメンバーが参加しました。



畑へ行くと青々と茂った茶畑が広がっていて、日差しは強かったのですが爽やかな気分になりました。近くに行ってみると「わ～まだ葉が小さいたい」「今年は急に寒くなったり暑くなったりして新芽がうまく育たんだったかな～」というメンバーの声が聞かれていましたが、その中から柔らかくて小さい新芽を丁寧に摘んでいきました。経験のあるメンバーに「これが新芽だよ」「だいたい3枚ずつ摘んでいくといいよ」などと教えてもらいながら、経験のない若いメンバーも安心して一緒に作業に取り組んでいました。私も初めて参加した時にはメンバーから教えていただきました。和気あいあいとした雰囲気、こんな時は時間が経つのも早く、あっという間に作業が終わりました。「暑かった～」「疲れた～」という声があちらこちらから聞こえていましたが、メンバーの顔には笑顔が見られていました。最後に、なでしこで用意したお汁粉をいただきました。とてもおいしかったです。

(リハビリテーション部 江口 紗代)



地域生活支援センター 「なでしこ」リニューアル!

2008年4月から「なでしこ」の建物が新しくなりました。

によってより一層の支援を行いたいと思っています。

すので、利用者さんや職員と話して、ゆっくり過ごしたいという利用の仕方でも可能です。

障がいを持っていても地域で安心して生活ができるように相談の場所、憩いの場所として、『地域生活支援センターなでしこ』は2003年に開所しました。

障害者自立支援法が施行され、2006年10月からは山鹿市と植木町の委託を受けて『地域活動支援センター』と『指定相談支援事業』の2つの事業を行うことになりました。新しい事業を行うにあたって多少の混乱はありましたが、開設当初から続いている料理教室や地域行事への参加、季節に応じたイベントを継続しながら、今まで以上に地域で生活する障がい者の方への支援に力を入れています。2008年4月には新しい建物が完成し、広い活動室と相談室

地域活動支援センター

地域活動支援センターでは、日中活動の場所としてさまざまな活動を行っています。みんなで楽しく作る料理教室や、肥後狂句は植木町の広報誌に掲載してもらえ、季節に応じた活動も計画して、そうめん流しや餅つきも行っています。地域交流ではお祭りに出店や、清掃活動への参加、民生委員さんとの交流会も企画しています。活動の内容は利用者さんと一緒に考えて行っていますので、皆さんの参加をお待ちしています。

「今日は何もする事がないけど“なでしこ”で過ごしてみよう」というセンターを目指しています。憩いの場所としても機能していま

指定相談支援事業

障がいのある方が地域で生活をしていくために必要な事を一緒に考え、サービスの利用などのお手伝いを行います。福祉サービスの窓口は、申請の方法など分からない事についての相談を受け付けています。

出張相談では障がいの種別に関わらず相談対応ができるように、身体障がい、知的障がい、精神障がいの相談員3名が各市町で相談を受け付けています。

お気軽にご相談ください。
(地域生活支援センター
須藤 史朗)

地域活動支援センターの主な活動

活 動	内 容
肥後狂句・絵画・書道	伝統文化に触れ日本の歴史を学び、活動を通して集中力を高めたり、完成の喜びを知ったりします。
パソコン教室 勝手にパソコン	パソコンの操作方法を学び、パソコンの技術を取得します。自由にパソコンを操作する事によってパソコンの楽しさを知ってもらいます。
マナーアップ	あいさつや会話方法、対人関係の接し方を学び、日常生活の生活技能のスキルアップを図ります。
スポーツ	体を動かし、卓球やヨガを通して健康の増進を図ります。
料理教室 かんたんクック	料理の準備から片付けの一連の流れを体験することで協調性や社会生活の向上を図ります。

地域生活支援センター
なでしこ (096) 272-7214

● 開所時間

月～金曜日 9:00～19:00
土曜日 9:00～17:00

● 出張相談

山鹿健康福祉センター
毎週水曜日 9:00～11:30
植木町かがやき館
毎週木曜日 9:00～11:30

こもれびプラザ

向陽台病院ではさまざまな情報を発信しています

そよ風

平成 20 年 4 月 26 日、平成 20 年度向陽台そよ風家族会総会を新ダイケア棟で開催しました。当日は 24 名の方が参加され、初めて参加されたご家族も数名いらっしゃいました。

家族会の古田会長と森事務部長のあいさつに始まり、総会では昨年度の活動報告・会計報告がありました。総会後には、ご家族対象に行った家族会についてのアンケート結果を参考に、平成 20 年度の活動内容について話し合い、講演会の依頼や会のあり方について、さまざまな意見が飛び交い活発な会となりました。

その他に、家族としての対応の仕方やタイミングについて他の家族の意見を聞きたいとのことで意見交換されたり、参加して間もないご家族からは、「色々な情報を家族会以外でどのような所で知り得ているのか」という質問があり、それに対して長年家族会に参加されている方から、「県の家族会大会に参加するとさまざまな情報が得られる」といった、アドバイスされる場面もみられました。

今回の集いでは、あえて病院スタッフが少人数参加するという形式をとりましたが、より親密にご家族同士が意見を交わされる場面が多かったように感じます。

最後に家族会新役員の選出も行われ、今回の家族会で出されたご意見やご要望を基に、新役員の方々を中心に今年度の家族会例会を決定していく予定です。家族会では、少しでもご家族の不安や疑問の支えになればと活動しています。見学も歓迎していますので、まだ参加されたことがないご家族でも気軽に参加することができます。ご参加をお待ちしています。

(リハビリテーション部 大山 満子)

■次回の家族会: (内容は未定)

平成 20 年 7 月 26 日(土)

10:00 ~ 12:00

栄養だより

はじめまして。4 月 1 日から向陽台病院で勤務させていただいています、管理栄養士の田中と申します。まだまだ不慣れで周りの方々に迷惑をかけながらやっていますが、「1 歩ずつ前進あるのみ!」でがんばっていいと思っています。皆さまよろしく願いいたします。



今回のテーマは、これから特に注意が必要な食中毒についてです。食中毒は夏場に多発します。気温の上昇とともに 5 月ごろから増加しはじめ、7 月から 9 月にピークとなります。(最近は、住宅事情の改善により、年間を通じて発生しているようです)

食中毒予防の三原則は、**食中毒菌を「つけない、増やさない、殺す」**です。このことを念頭において、予防につとめましょう。

- ①食事の前には必ず手を洗い、清潔なタオルで拭きましょう。
- ②箸やコップ、ペットボトルは、清潔にしましょう。
- ③食事を作るときは、十分に加熱しましょう。
- ④食品を常温で長く放置しておく、細菌繁殖の危険があるので、食事は作ってから 1 時間以内に食べるようにしましょう。

(栄養課 田中 和代)

病院建物内 全面禁煙のお知らせ



当院は、今年で創立 45 周年を迎え、関係するすべての人がより健康で生活できるようにとの願いをこめて、平成 20 年 9 月 1 日から病院建物内禁煙を行います。

禁煙委員会



編集 後記

今回から新しくメンバーに加わり、広報誌作りに携わるようになりました。言われるがまま慣れない作業に取り組み、全ての工程に不安を抱えて臨みましたが、今後も皆様に親しんでもらえるような広報誌作りを行っていきたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。(須藤 晶子)

発達障がい児(者)への 手立てとかかわり (三つ組①)

6

発達障がいとは、単なる知的な発達の遅れとは異なる、発達に偏りのある病気で、自閉症や高機能自閉症・アスペルガー障がいなどを言います。さまざまな呼び方があったり、発達の問題がわずかだったり部分的だったりするため、周囲からの理解が得にくいことがこの病気の難しさといえます。これらを総称する時に自閉症スペクトラムという考え方があります。「スペクトラム」つまり、虹のように境界線が曖昧で、態度が連続して明確な線引きが出来ない事からこのように表現されます。しかし、多様さはありながらも根本的な特徴は共通していると考えられ、「三つ組 (①社会性の障害、②コミュニケーションの質的障害、③イマジネーションの障害)」と呼ばれる概念にまとめられます。特徴の現れ方に個人差はあっても、子どもの伸ばし方の原則は共通です。今回から3回連続で「三つ組」について一つずつお話しします。



さて、今回は①の社会性の障害についてお話しします。社会性とは、対人関係、つまり人との付き合い方のことを意味します。例えば自閉症というと、自分の殻にこもったり、人と付き合うのを嫌ったりするように思うかもしれませんが、実際は見知らぬ人に突拍子もなく声をかけたりすることもあります。乳幼児期には、人見知りがなく、誰に抱かれても平気だったり、後追いがなかったり、そうかと思えば家族にもなかなかつかず、世話をされることを嫌う子もいます。人との付き合いにおいて、相手との関係(間柄)を理解し、それに適した距離や行動をとることが苦手です。時には仲良くなりたいという気持ちがあっても、かかわり方が一方的だったり、やり方が分からず、仲間作りが難しい場合もあります。

また、発達障がい児(者)は、言葉以外の情報を集めたり、読み取ったりすることも苦手です。視線が合わないため、他者と物事を共有することが難しいようです。相手の気持ちや考えを察し、場の雰囲気に合わせてる事ができないために、他の人から誤解されたりします。



当院では、年齢や特徴に応じて、博士クラブやスピーチ訓練グループという名称で、話し方や日常生活での振る舞いの練習をするグループ活動を行っています。ご本人の訓練や、保護者同士の話し合いの場を設けています。周囲には問題と映ることで、本人にとっては普通のことです。本人の世界を理解すると周囲も本人も生活しやすくなります。訓練では、場の雰囲気を読む具体的な視点や注意点を覚えたり、スタッフが手本を示した後で、真似して体験します。その成功体験は、集団に参加しようという意欲に繋がると同時に、信頼関係や愛着関係をつくったり、自己肯定感を高める経験にもなります。

気になる事があれば、地域連携室(電話:096-272-5250)までご連絡ください。

(リハビリテーション部 井本 香織)

外来担当医一覧表 ※下記担当医は変更する場合がございます

	月	火	水	木	金	土
午前	松岡	田中(隆) 松本	横田	田中(隆) 大石	横田 松本	週替わり
	大石	ディケア 横田	松岡	ディケア 小山	ディケア 田中(亨)	
午後予約	小山	田中	橋本	松岡	佐藤	
	田中(亨)	田中(亨)	もの忘れ外来 大石	山田	思春期外来 横田	

- 診療科目 精神科・心療内科
- 特殊外来 水曜日午後：物忘れ外来
金曜日午後：児童思春期（発達障害）外来
- 病床数 220 床
- 外来診療時間
月～金曜日 午前9時40分～12時00分
午後2時30分～5時00分
- 土曜日 午前9時40分～12時00分

新患は予約制です。予約受付：096-272-5250
＜平日：午後4時まで／土曜日：午前11時まで＞

祝日は平常通り診療しています



産交バス
向坂バス停から
徒歩3分
明治乳業バス停から
徒歩3分

車
植木ICから10分

JR
植木駅下車
タクシーで6分



日本精神神経学会専門医研修指定病院 日本精神科病院協会認定専門医研修病院
2005年から日本医療機能評価機構の認定を受けています

医療法人横田会 向陽台病院

〒861-0142 熊本県鹿本郡植木町大字鑑田 1025

TEL：096-272-7211・FAX：096-273-2355

<http://www.koyodai.or.jp/>

